

主導権地におけるヨ帝国家権力と兵、同の二期工事をめぐる死傷は開始された。からの「話し合い」攻撃とその粉碎=勝。二八兩軍での爆発、四月富貴からの作たなアダラの激化と反撃の開始。ここにはヨ帝国家権力の山喜の攻撃と必死にたたかう農民の偉大な姿がある。ヨ帝は侵略戦争のためにこの三里塚農民を攻撃しようとしているに。それに対し三里塚農民は人民のたたかへの決起を確信し、さらに走りくいじうてがんばっている。この血叫びにてたえ、ともにににたかうことこそがすべての人々の進むべき道だ。すべての学生諸君、とりわけ新入生諸君、物が中核と共にその先頭に起とうではないから。5月13日、反対同盟農民を迎えて、三里塚二期決戦勝利、新入生歓迎会(11月12日/教室)に万難を排して参加しよう。

今日の二期決戦こそ三里塚闘争十七年の一切のかかった戦だ!

二期着工をめぐる攻防は三里塚闘争の勝敗そのものをかけたたたかいである。二期着工攻撃は、反対同盟と三里塚闘争のたたかいに存在そのものを向う根柢的攻撃であり、過去

十七年間のいかなる攻防にも比して根柢、内自の激烈なものとなるさるをえない。一期工事をめぐるたたかいも、開港とめぐるたたかいも二期決戦のステールから見れば、二期決戦における序曲にすぎないのだ。だからこそ二期決戦の八年は、三里塚十七年の歴史をかけた決戦の年であり、このたたかいは戦後史をかけた人民の決戦であり、八〇年代の人々のたたかいを決するにたかくなつた。

二期攻撃の本格的開始として、「話し合い」攻撃はおどけかかった。

だからこそ、昨年来の「話し合い」「秘密会談」攻撃は、ヨ帝運輸省・公団の二期着工の国策的決定にもとづく反対同盟懐柔・暗体運動をテコにした農民庄役の全面的攻撃だった。運輸省官房審議官・財部経治を片頭に反対同盟の「空港絶対反対、一切の話し合い拒否」を転換させ、反対同盟の全面解体・終焉化を、石橋・内田市政の「秘密会談」への参加を元に八年春までに推進・完成させ、たちに二期工事の部分的着工=岩山アプローチ埋め立てを開始し、夏からそれにかけて、東地内の屈服をはかり全面工事に突入する攻撃としてあつた。

そのたたかいは、右翼政治スローガン西村明臣「三里塚・芝山地域利害基本構想」なる文書を打ち歩き、反対同盟せり附しに暗躍し、反対同盟地域内に「三里塚・芝山地域会議」

5月13日 地域・語彙

地 田 「抵抗の大戦」(三里塚(執行阻止)斗争の記録)

講 章 三里塚丸山連合空港反対同盟

基 語 フリ字同盟核派 京大支部

第一回地元特別報告

という条件組織をテッ子あげ、反対同盟を女ごと吸収することを狙ってきた。そのために公団自身が条件乖形成のための11項目の和解条件案を作った。また農振策を空港整備事業の一環としてやテン的な利益誘導をもっておしそうめ、同盟地域内の条件をこの利益誘導でとりこみ、反対同盟内部までもちこみする「空港絶対反対」の転換を狙った。

基本路線

二期決戦勝利の突破口を切り拓いた82年夏頭の決戦

こうして日帝は二期着工の具体的攻撃を本格的に開始し、日帝と大農の八〇年代の帰すうをかけた階級的激突が開始され、反対同盟はこの攻撃に真正面から対決し、三里塚闘争の原点にたち、基本路線を再度確認・堅持することをとおして勝利した。

三里塚闘争の原点とは、国家権力から農民の生活と権利・生命と財産を断固として守り抜き、死すべきは帝国主義であるといいきつたことである。国策のために農民の生活・生命を無視し、問答無用に土地を暴力的にびりあげる日帝国家権力と空港絶対反対の反対同盟農民は非和解的な関係にあり、「話し合い」をして条件交渉する余地はない。ここに「空港絶対反対・一切の話し合い拒否」の基本路線がうちだされてきたのだ。そしてこの勝利は、わが中核派の革命的武装闘争方針との物質化と結合することをとおして勝ちとられた。

新たな二期攻撃の敗化と終対決せよ！

八〇年夏頭の勝利は偉大な勝利である。だが一方では二期着工の一舉的突入を阻止したという勝利のキー部分に重き深い。二期決戦は端緒をひらいたばかりであり、決戦はいよいよこれからだ。日帝は新たな二期攻撃を開始している。

第一は、反対同盟の自主耕作地の破壊攻撃である。四月一日付朝日新聞で「四月から継め出し作戦に乗りだす。多くのトラブルがあっても強い姿勢で臨む」と宣言し、六日には機動隊の力を背景にして公団、千葉県、芝山町の職員が、青年行動隊の自主耕作地の耕作中止の警告をしてきた。この攻撃は自主耕作地を暴力的に破壊する恫喝をもって反対同盟員が行っている自主耕作地をとりあげ、公団の用意する公团開地と貸し付け契約することに追い込まれることを狙つものであり、公団から農地を貸し付

けるという形で営農基盤をも公団に依頼させ利益誘導をはかろうとするものだ。

こんなデタラメな攻撃を許してはならない。空港建設自体が反対同盟員の営農基盤を破壊しようとしているのだ。公団用地を点状放題にし、害鳥・害獣・害虫・雑草を異常に繁殖させたのはだれか。その責任こそとられるべきだ。農民の最小限の防衛策である自主耕作地を破壊し、恩着せがましく「契約して反一萬を支払って借りる等ということを許してはならない。

第二は、代耕地整備に本格的に着手し、八二年内に約50haの耕作地として完成させようとしていることである。

第三は、「パイオライン、八三年六月供用開始」という「見通し」の発表である。パイオラインは二期のための工事であり、パイオラインの完成をうちだしたことばは「二期を全面的にゴーする」という宣言である。

第四は、運輸大臣小坂が四月三日の参院予算委員会(外國の秉り)入り要求をうけ入れ日本が対米不平等条約を是正するためにも国内の国際空港の整備を急がねばならない」と發言し、日米争闘戦を元に、日帝の全体運をかけた二期着工を宣言したことだ。

第五は、三里塚をたたかう人民の拠点、神奈川県、部落解放同盟大阪府連絡本部と憲法部東小坂へのデタラメな神社・破壊攻撃である。

五、一三集会突破口に二期攻撃を粉碎せよ！

明らかに日帝は、より凶暴化した二期攻撃を強めている。われわれは三・一三、五・七をしきつぐ革命的武装闘争を爆発させると同時に、巨万の人民の三里塚への決起をくちとらねばならない。

五、二三反核東京大行動に反対同盟と共に三里塚闘争の勝利をかけて決起しよう。三里塚闘争は反戦反核闘争の皆であり、十七年間一貫して軍事空港建設を阻止し、立たかい抜いてきた日本の人民の歴史だ。五・二三反核闘争に三里塚を真正面から擡げてとりくみ、その力を五四・三里塚現地闘争として連続闘争としてたたかいとり。日帝・運輸省・公団に大反撃をくわえよう。

五、一三三里塚二期攻撃勝利新入生歡迎全京都学生集会を、反対同盟農民を迎えて大爆発させよう！

全ての学友は、じめ教義A121教室に集めよ！
共にたたかわん！